

市民のみなさまへ(ごあいさつ)



札幌市教育委員会
教育長 檜田 英樹

札幌市では、少子化の影響により児童生徒数の減少とともに1校あたりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでおります。

小規模な学校は、家庭的な雰囲気の中で、教員が子どもたち一人ひとりにきめ細かく関わりやすいなどの長所がある一方で、効果的なクラス替えが行えず人間関係が固定化する、多様な価値観に触れる機会が限られる、配置される教職員も減るため学校運営に支障が出る等、様々な課題が生じる可能性があることが指摘されています。

子どもたちがたくましく育ち、社会性や協調性のほか、向上心、創造性、多面的思考や公正な判断力を身に付けるためには、「集団による学びの力」が非常に大きな役割を果たします。

未来を担う子どもたちにとってより良い教育環境を整えるため、札幌市教育委員会では、「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」に基づき、学校規模の適正化の取組を進めております。

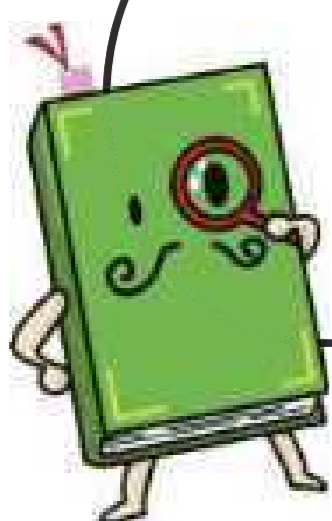
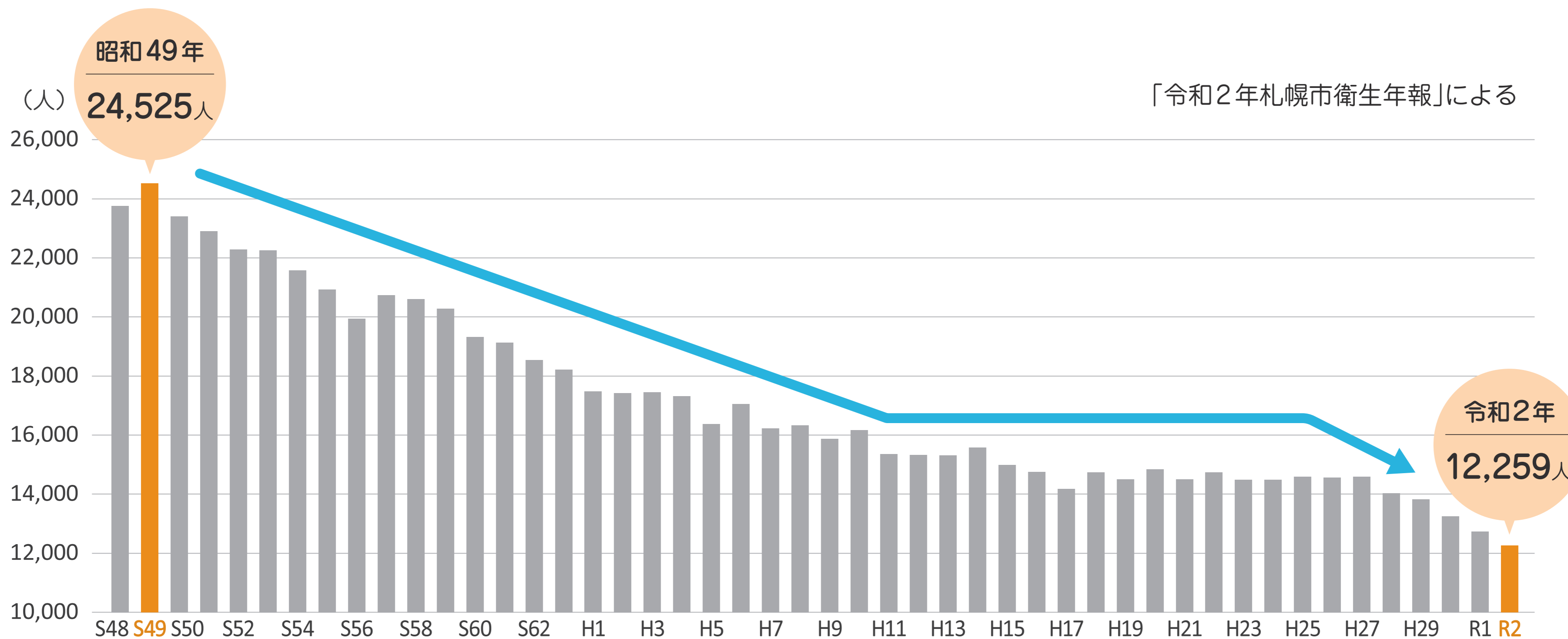
本地域の取組にあたっては、保護者や地域の皆様から寄せられた声をしっかりと受け止めながら、今後具体的な検討を進めてまいります。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

子どもの数はそんなに減ってるの？

出生数が一番多かった昭和49年(第2次ベビーブーム期)の24,525人に比べて、令和2年は12,259人まで減少しているんだ。



札幌市の出生数推移



少子化に伴って、1校あたりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでいるよ。だから学校規模適正化の取組が必要となるんだ。

「学校規模適正化の取組」ってなに？

「学校の小規模化」が進んでいる中、子どもたちにとってより良い教育環境を整えるため「学校の統合」や「通学区域の変更」により一定の学級数を確保し、「学校の規模」を「適正」にする取組のことを言うんだ。



「適正な学校規模」ってなに？

小学校

18～24学級(1学年3～4学級)

少なくとも12学級以上(1学年2学級以上)

中学校

12～18学級(1学年4～6学級)

少なくとも6学級以上(1学年2学級以上)

札幌市立小中学校の「適正規模」設定の観点

- 効果的にクラス替えを実施できる規模
- 指導面の連携や、登下校時・緊急時における体制づくりが円滑に行える教職員体制の確保
- 一人の教員が複数教科を担当することのない教員数の確保(中学校)

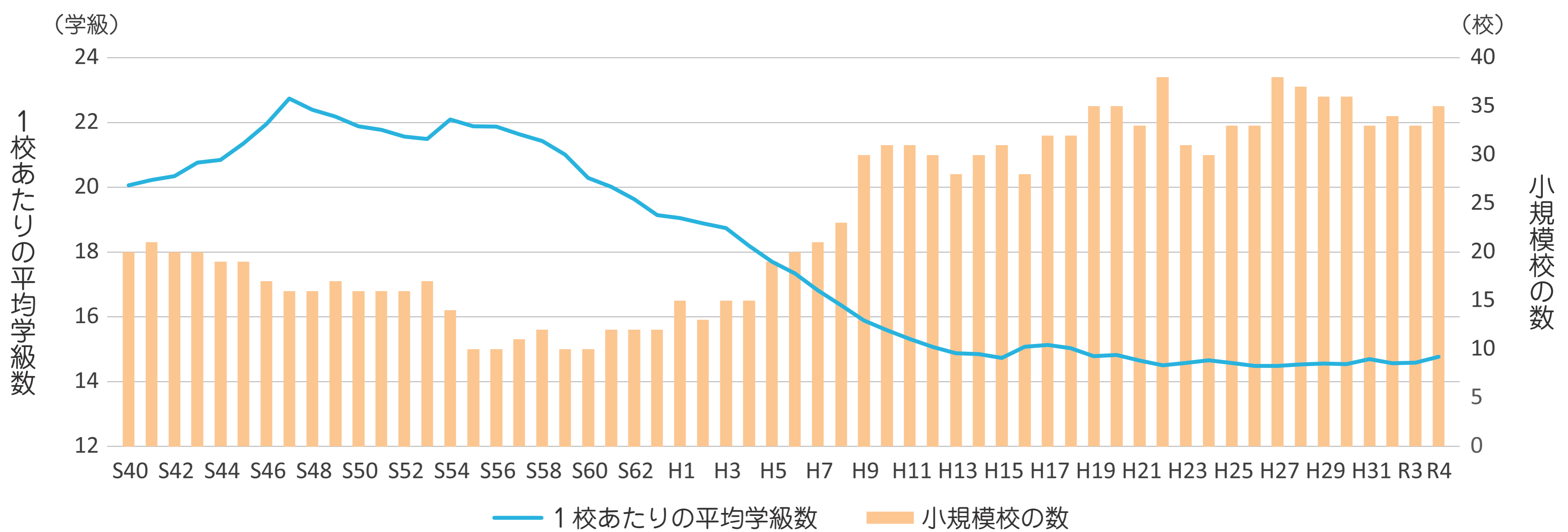
など

札幌市では小学校は12学級未満、中学校は6学級未満の学校のことを小規模校と呼んでいるよ。

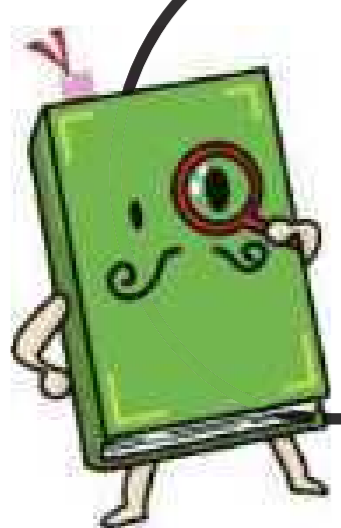


小規模校はどれくらいあるの？

1校あたりの平均学級数と小規模校数の推移(小学校)



※小規模特認校4校(盤溪小、有明小、駒岡小、福移小)は除く



令和4年時点で小学校35校・中学校3校が小規模校となっているんだ。「学校の小規模化」に伴って、小規模校の数が平成以降増加傾向にあることがわかるね。

※小学校では、1学級の最大人数を40人から35人にする少人数学級の取組を進めており、令和4年度の平均学級数は、前年度に比べてやや増加しています。

学校が小規模化してはダメなの？

小規模な学校にはメリットと課題の両面があって、一般的には以下のようなことが言われているよ。



小規模な学校の**メリット**

- 一人一人の学習状況や、学習内容の定着状況を把握しやすい。
- 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- 異年齢の学習活動を組みやすく、校外学習などを機動的に行いやすい。
- グラウンドや体育館、特別教室などが余裕をもって使える。

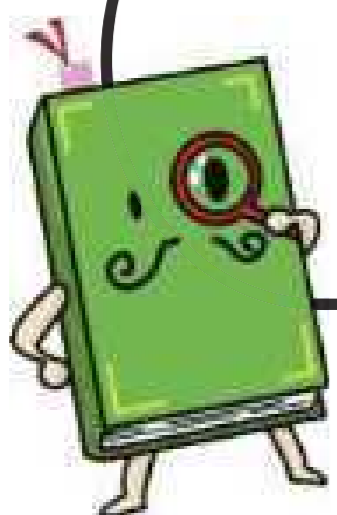
など

小規模な学校の**課題**

- クラス替えが困難となり、人間関係が固定化し、集団活動の機会が限定される。
- 運動会や学習発表会などの学校行事において、種目や演目が限られる。
- 様々な価値観への出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる。
- 学校行事において、児童生徒の安全・安心の確保や円滑な運営に必要な体制を整備しにくい。

など

現在の小規模校では、課題をカバーし、メリットを生かすような教育を各学校が工夫して行っているよ。



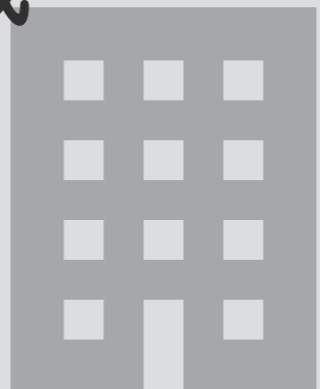
「学校規模適正化の取組」は 札幌市や教育委員会が進めるの？

学校に通う児童生徒の保護者や地域の皆さんとよく相談しながら進めているんだ。具体的には以下のステップで検討を進めているよ。



「取組イメージ」を検討・作成

- 札幌市
- 教育委員会



「取組イメージ」の説明・意見交換

- PTA 役員(保護者代表)
- 連合町内会役員(地域代表)



∖ 現在はこの段階です /

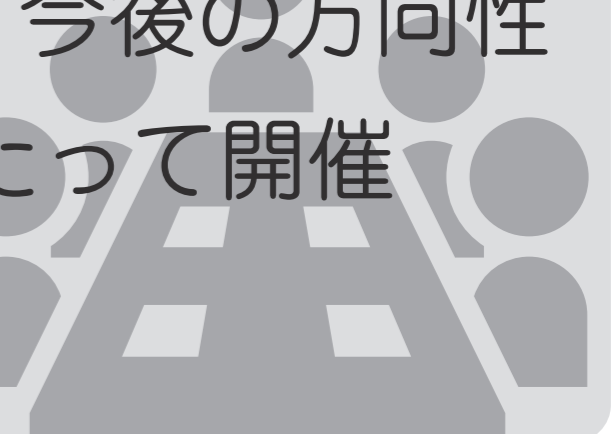
「地域説明会」を開催

地域や保護者の方への周知
及び意見募集



「検討委員会」を開催し、 「取組イメージ」をたたき台として協議

- 学校統合や公共施設の複合化の課題や、その解決方法、今後の方向性
- 年3～4回、数年にわたって開催
開催結果は各世帯へ周知



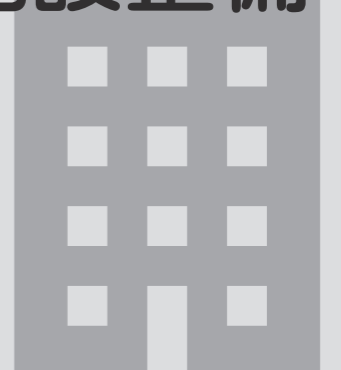
「意見書」を提出

最終的に「検討委員会」で協議した内容を
まとめ、札幌市・教育委員会に提出

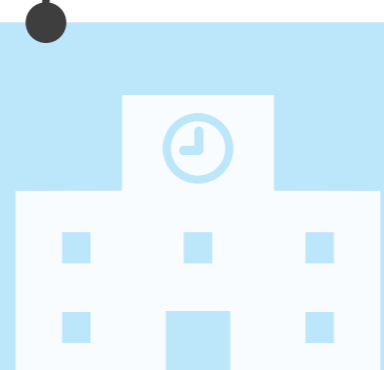


「意見書」の内容を最大限に尊重して、 統合・複合化に向けた準備・施設整備

- 札幌市
- 教育委員会



統合校開校



検討委員会ではどんなことを話し合うの？

通学区域のこと、校舎整備のこと、まちづくりセンターや児童会館の複合化のこと、閉校後の跡活用のことなどを話し合うよ。
特に通学に関しては、これまでの検討委員会でも議題となっていることが多いよ。



札幌市の通学に関する考え方

通学区域の設定にあたっては「徒歩通学」を基本としています。
徒歩通学の目安は、小学校はおおむね2 km 以内、中学校はおおむね3 km 以内です。
これらの通学距離を超える場合は、路線バス等を活用した通学方法を検討します。

これまでどんな学校で取り組みが行われたの？



平成16年4月開校 資生館小学校
(創成小、大通小、豊水小、曙小が統合)



平成23年4月 米里小学校・中学校に
東米里小・中がそれぞれ統合



平成23年4月開校 もみじの丘小学校



平成23年4月開校 もみじの森小学校
(もみじ台小、もみじ台南小、みずほ小、
もみじ台西小の4小が2小学校に統合)



平成24年4月開校 真駒内公園小学校
(真駒内曙小、真駒内小が統合)



平成24年4月開校 真駒内桜山小学校
(真駒内南小、真駒内緑小が統合)



平成28年4月 簾舞小学校に豊滝小
が統合



平成31年4月開校 石山緑小学校
(石山小、石山南小が統合)



令和3年4月開校 芸術の森小学校
(常盤小、石山東小が統合)



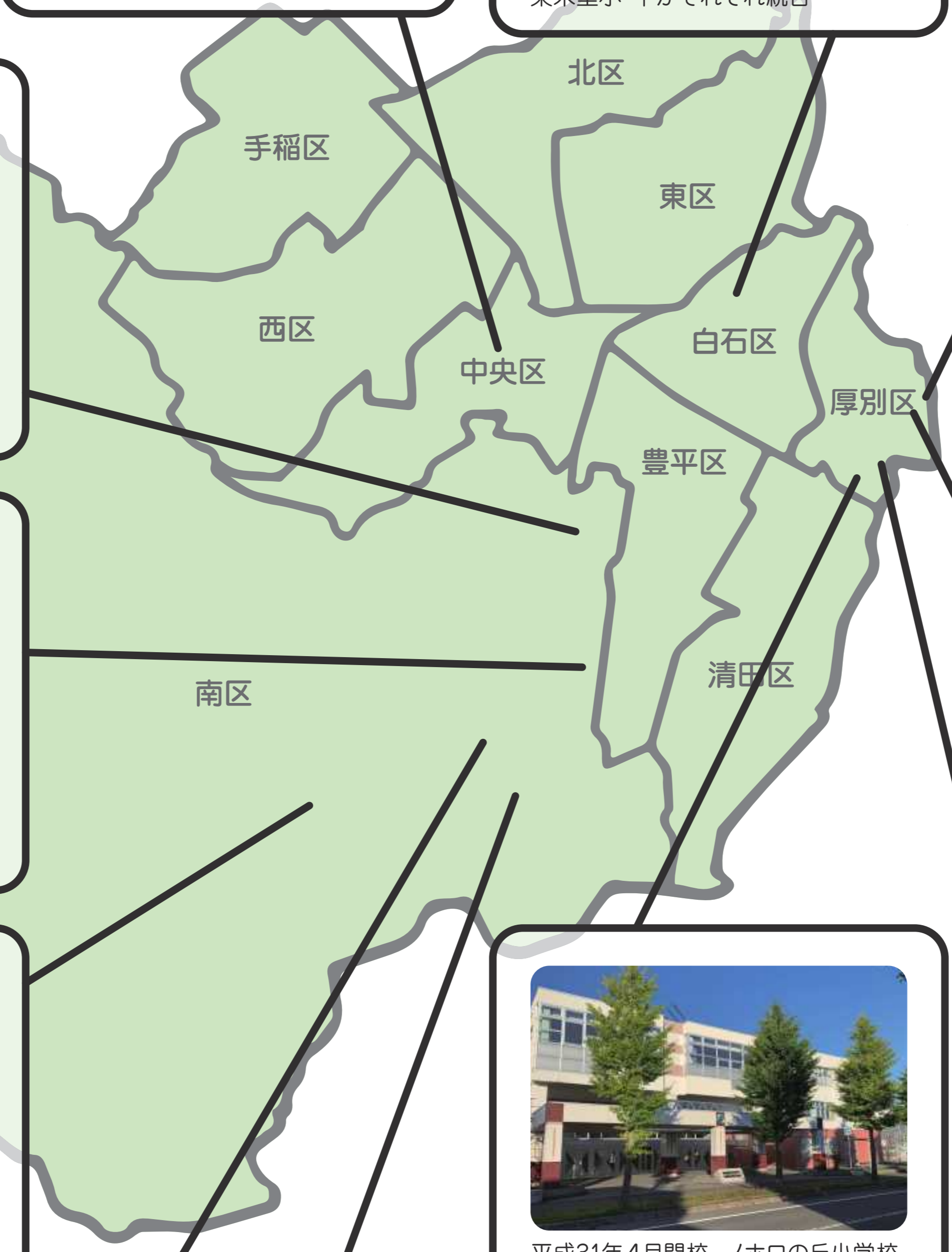
平成31年4月開校 ノホロの丘小学校
(上野幌西小、上野幌東小が統合)



令和4年4月 もみじ台中学校にもみ
じ台南中が統合



令和2年4月開校 新札幌わかば小学校
(上野幌小、青葉小が統合)



これまでは、南区や厚別区の地域における取組が比較的多いけど、少子化に伴い、札幌市全体で小規模校化が進んでいるよ。



取組の具体的事例は？（取組には何年かかるの？）

南区の「石山小学校」と「石山南小学校」の統合の事例を紹介します。
 平成24年時点で石山小学校は6学級、石山南小学校は8学級と、2校とも適正規模を大きく下回っており、学校規模適正化の取組が急務でした。
 4年間、計16回の検討委員会を経て、平成31年4月に統合校が開校しました。
 統合校は、旧石山小学校敷地を活用し、校舎を改築の上、児童会館とまちづくりセンターが複合化されています。

平成24年	対象地域に選定	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域、学校との意見交換
平成27年	第1回～4回検討委員会開催	<ul style="list-style-type: none"> 統合校の位置 改築等工事 開校予定時期 などを協議
平成28年	第5回～9回検討委員会開催 市教委に対し、「意見書」を提出	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりセンターと児童会館の複合化 統合校の施設配置 閉校する学校の跡活用 などを協議
平成29年	第10回～14回検討委員会開催	<ul style="list-style-type: none"> 通学安全、跡活用について協議 両校の交流事業開始
平成30年	第15回～16回検討委員会開催	<ul style="list-style-type: none"> 統合校の開校準備 跡活用 検討委員会閉会の時期 などを協議
平成31年	「石山緑小学校」開校	

札幌市・市教委にて統合について正式決定後、開校に向けた施設整備・準備開始

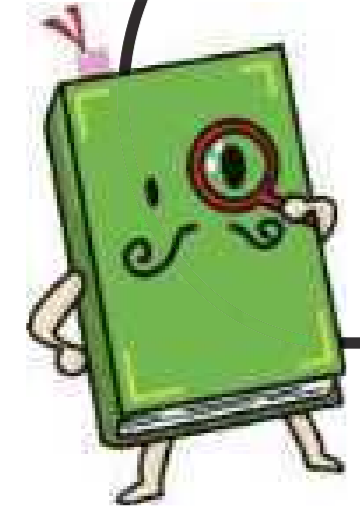
検討委員会について

- ### 構成メンバー
- 連合町内会役員 4名
 - 地域団体 6名
 - 各小学校PTA役員 3名ずつ
 - 各小学校校長 等

開催場所

まちづくりセンターに併設されている
地区会館の会議室

これまでの「学校規模適正化の取組」では、検討開始から統合に至るまで、長いところでは7年～8年の期間を要しているんだ。



統合した学校の子どもや保護者は何と言っているの？

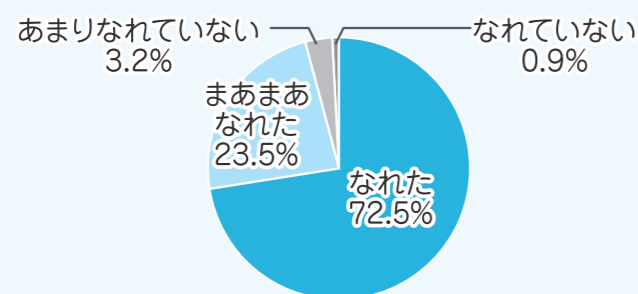
石山緑小学校「新しい小学校になったことについてのアンケート調査」結果

平成31年4月に開校した石山緑小学校における子どもたちの様子などを把握するため、在籍する2～6年生の児童、保護者及び教員を対象としたアンケート調査を令和元年12月に行いました。以下は、アンケート結果の概要です。アンケート結果の詳細及び、他の地区でのアンケート結果を札幌市公式ホームページで公開しています。

児童アンケート

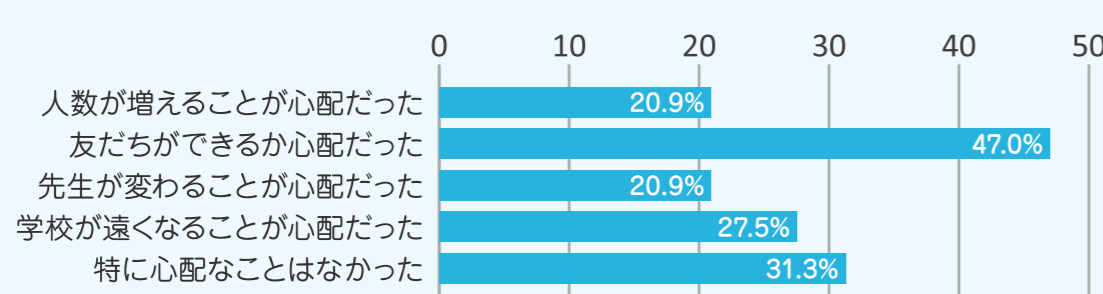
回答数345件(回答率95.8%)

●石山緑小学校には、なれましたか？



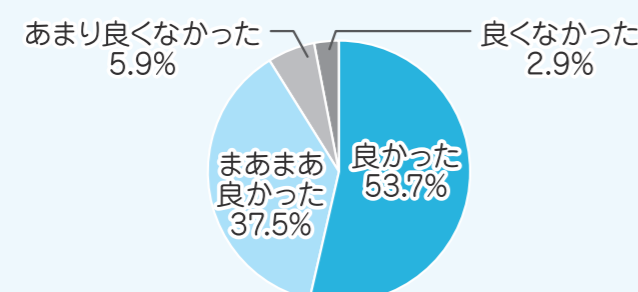
「なれました」「まあまあなれました」と回答した児童が全体の9割を超えています。

●石山緑小学校になるまで、どのようなことが心配でしたか？(複数回答)



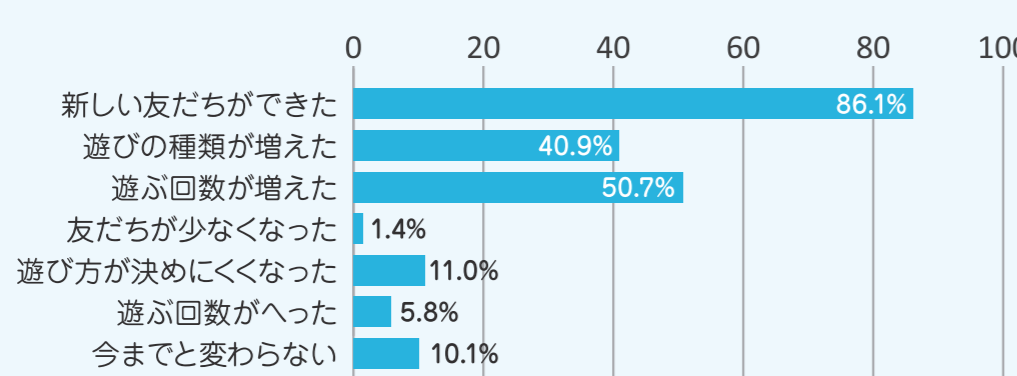
約半数の児童が「友だちができるか心配だった」と回答した一方で、約3割の児童は「特に心配なことはなかった」とも回答しています。

●石山緑小学校になって人数が増えましたが、そのことについてどう思いますか？



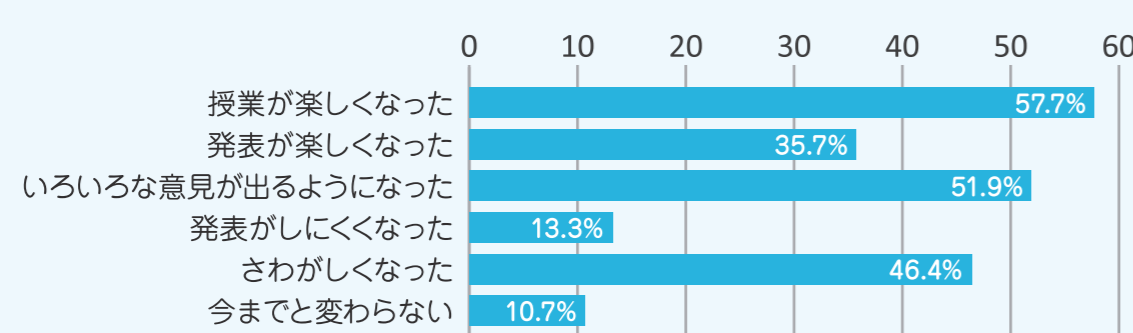
「良かった」「まあまあ良かった」と回答した児童が全体の9割を超えています。

●人数が増えたことで、友だちや遊びについてどのように変わりましたか？(複数回答)



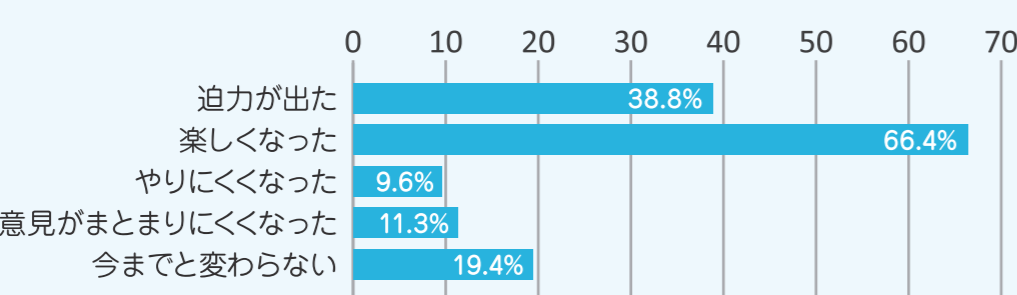
8割を超える児童が「新しい友だちができた」と回答しました。また、4～5割の児童が「遊ぶ回数が増えた」「遊びの種類が増えた」と回答しています。

●授業の様子は変わりましたか？(複数回答)



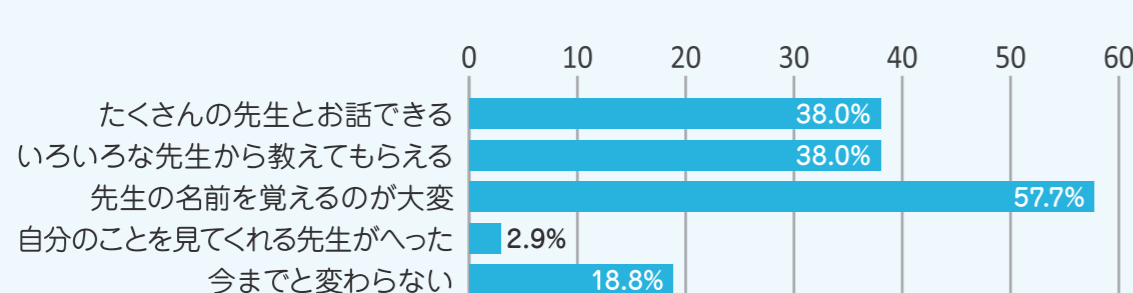
半数以上の児童が「授業が楽しくなった」「いろいろな意見が出るようになった」と回答した一方で、4割を超える児童が「さわがしくなった」とも回答しています。

●運動会や学習発表会など、行事の様子は変わりましたか？(複数回答)



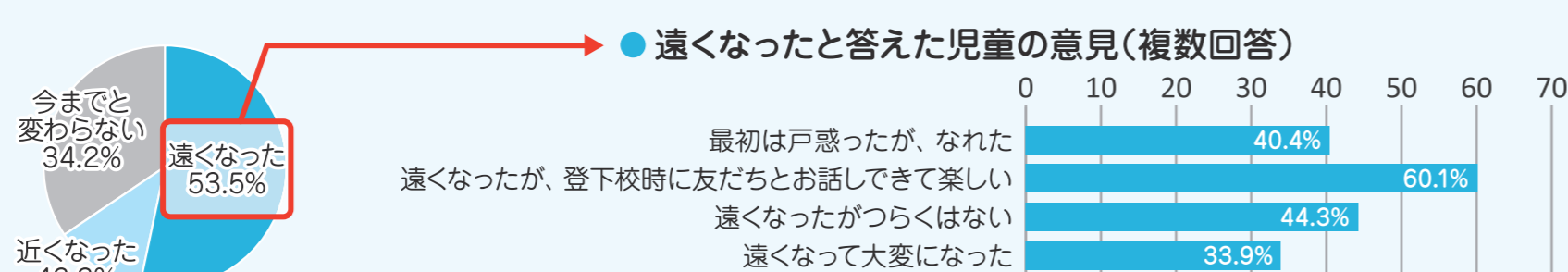
6割以上の児童が「楽しくなった」と回答しているほか、約4割の児童が「迫力が出た」と回答しています。

●先生が増えたことで変わったことはありますか？(複数回答)



半数以上の児童が「先生の名前を覚えるのが大変」と回答した一方で、約4割の児童が「たくさんの先生とお話できる」「いろいろな先生から教えてもらえる」と回答しています。

●石山緑小学校になって、学校まで遠くなりましたか？

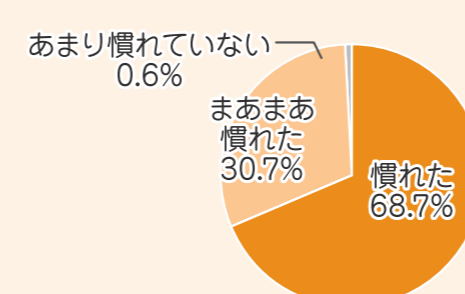


「遠くなった」と答えた児童のうち、約6割の児童が「遠くなったが、登下校時に友だちとお話できて楽しい」、約4割の児童が「遠くなったが、つらくはない」「最初は戸惑ったが、なれた」とそれぞれ回答をした一方で、約3割の児童が「遠くなって大変になった」と回答しています。

保護者アンケート

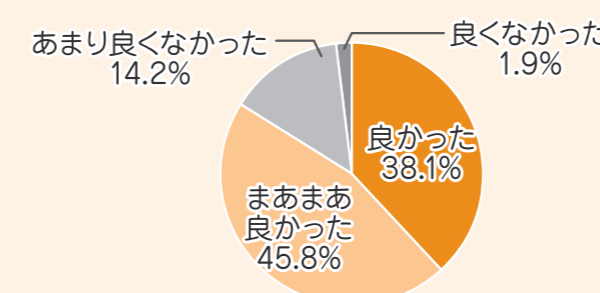
回答数325件(回答率90.2%)

●お子様は石山緑小学校に慣れたように感じますか？



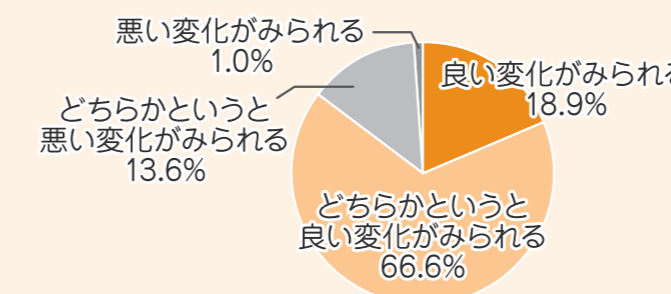
「慣れた」「まあまあ慣れた」と回答した保護者が9割を超えています。

●石山緑小学校になり児童数が増えましたが、そのことについてどう感じますか？



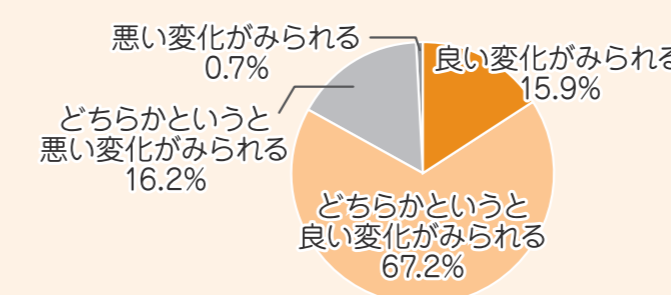
「良かった」「まあまあ良かった」と回答した保護者が全体の8割を超えています。

●石山緑小学校になり、お子様の学習意欲に変化はみられますか？



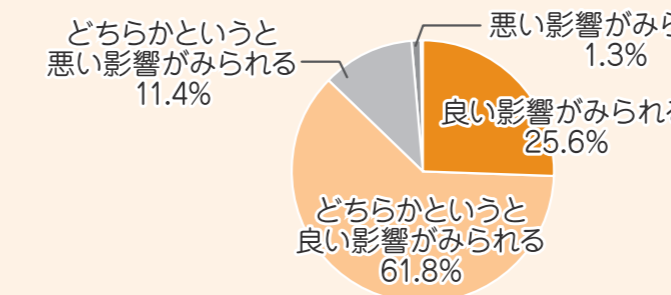
「良い変化がみられる」「どちらかというが良い変化がみられる」と回答した保護者が8割を超えています。

●児童数増加に伴い、運動会や学習発表会など、学校行事についてお子様に変化はみられますか？



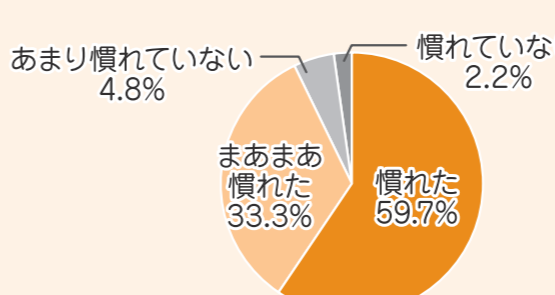
「良い変化がみられる」「どちらかというが良い変化がみられる」と回答した保護者が8割を超えています。

●統合により、お子様の人間・友人関係に影響はみられましたか？



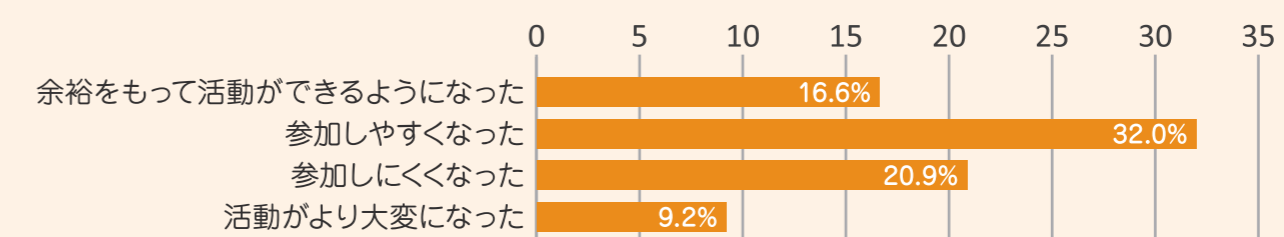
「良い影響がみられる」「どちらかという良い影響がみられる」と回答した保護者が8割を超えています。

●(元石山南小学校保護者のみ)通学路が変わりましたが、お子様は慣れたように感じますか？



「慣れた」「まあまあ慣れた」と回答した保護者が9割を超えています。

●石山緑小学校になり、保護者の人数も増えました。PTA活動など、保護者活動にどのような変化がありましたか？(複数回答)



約3割の保護者が「参加しやすくなった」と回答した一方で、約2割の保護者が「参加しにくくなった」と回答しています。

●開校前に心配なことはありましたか？



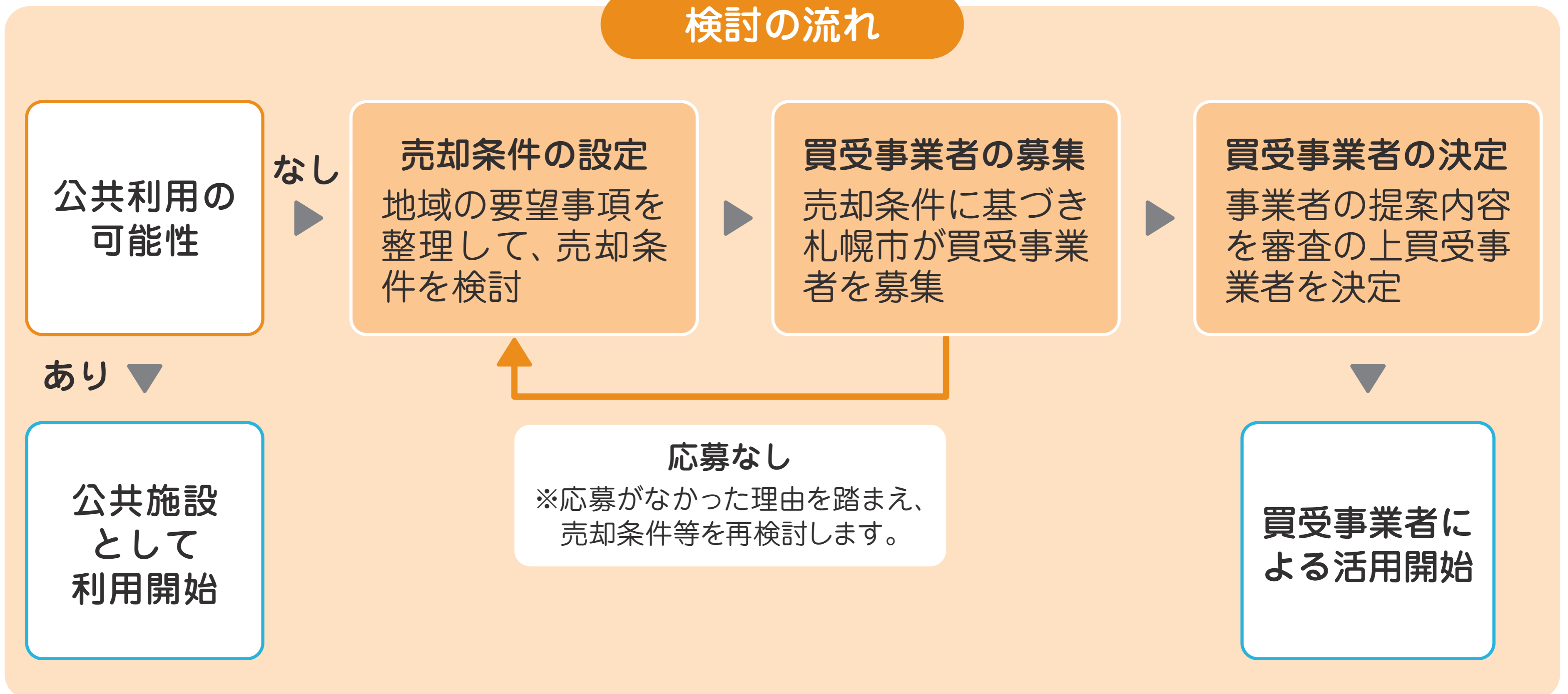
「心配なことがあった」と回答した保護者のうち、6割以上が「解消された」「まあまあ解消されている」と回答しています。

閉校した学校の跡地ってどうなるの？

公共利用の可能性がなければ、地域のみなさんの要望を踏まえて民間事業者への「条件付き売却」を検討します。



検討の流れ



地域からの要望に基づく売却条件(例)

地域住民の交流スペースの設置 / 緊急時の避難場所としての活用 / スポーツ交流の場の確保 など

跡地活用事例 1 光生舎 ゆいま～る・もみじ台 (旧「もみじ台南小学校」)



施設概要	新施設名 光生舎ゆいま～る・もみじ台(事業者/社会福祉法人北海道光生舎) 事業内容 特別養護老人ホーム、通所介護事業所、居宅介護支援事業所等 事業開始年月 2012年11月 ※2015年9月、校舎(体育館を除く)を解体し、施設を新築
売却条件	地域交流スペースの設置、地域交流事業の実施、地域防災への協力 など
実施状況	夏祭りや花壇の花植えなど、地域との交流事業を実施 地域交流スペースや体育館を開放し、お茶会やスポーツ交流の場として、地域の方々が利用 避難所に指定され、災害時には地域の方々を一定期間受け入れることとしている 等

跡地活用事例 2 カミニシヴィレッジ (旧「上野幌西小学校」)



施設概要	新施設名 カミニシヴィレッジ(事業者/学校法人大藤学園) 事業内容 認定こども園、コミュニティ施設等 事業開始年月 2021年4月
売却条件	地域住民が集える場の設置、スポーツ振興の場の設置、緊急時の避難場所の提供 など
実施状況	幼児教育と地域コミュニティを組み合わせた様々な取り組みの実施 体育館、グラウンド、会議室等を地域の方々に開放 体育館をプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」が利用 等

【留意事項】売買契約上、売却から10年間(民法上の最長期間)は提案内容と異なる事業を実施した場合などに買戻しを可能とする特約を締結することで、売却から10年間は提案内容に基づく事業の実施を担保します。



この地域の学校はどうなるの？

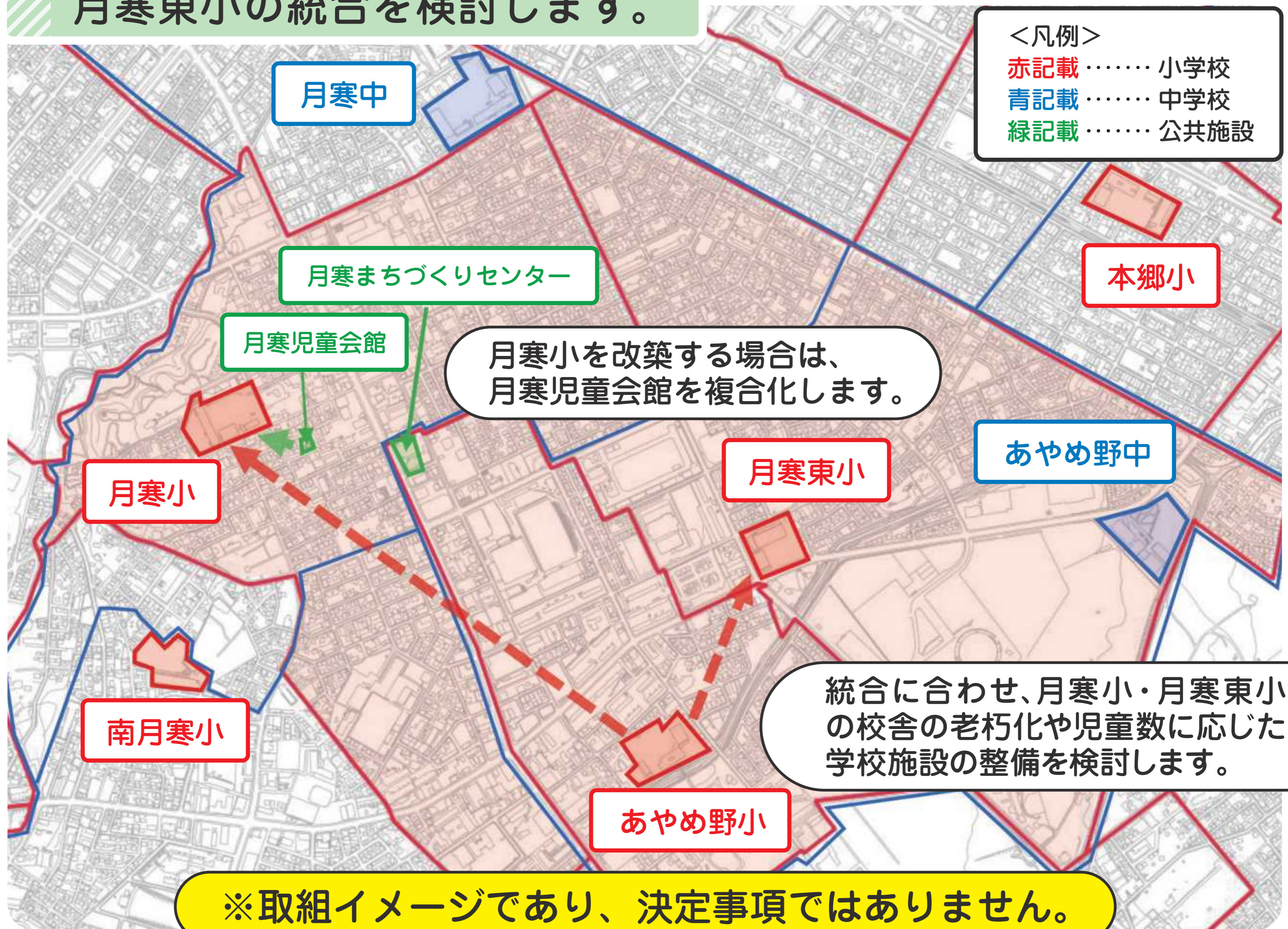
<令和3年5月1日時点の住民基本台帳データ等に基づく推計値>

(単位…児童数：人／学級数：学級)

	R3		R4		R5		R6		R7		R8		R9	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
あやめ野小	168	6	168	6	170	6	172	6	183	7	196	7	204	8
月寒小	564	18	542	17	527	17	507	16	473	15	450	14	418	13
月寒東小	561	17	566	18	552	18	525	18	533	19	523	19	483	17

※特別支援学級を除く

あやめ野小と月寒小、 月寒東小の統合を検討します。



今後、この地域では「月寒・東月寒地区学校配置検討委員会」が開催され、具体的な検討を行っていきます。

検討状況につきましては、検討委員会開催ごとにニュースでお知らせするとともに、皆さんの意見を募集いたします。

本会場には、個別相談ブースを設けておりますので、気になる点や不明な点につきまして、ご遠慮なくお尋ねください。
また、アンケートへのご協力をお願いします。